

肢体不自由教育部門 高等部

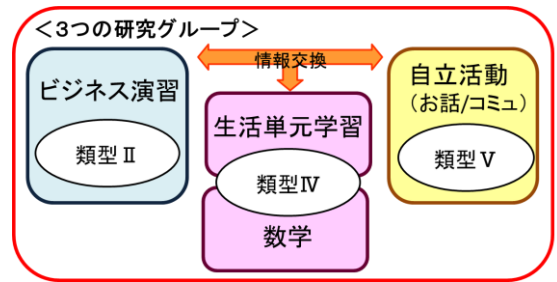
研究テーマ

「人とのかかわりの中で主体的に活動する 授業づくり ～卒業後の姿を見据えて～」

1 研究の目的と方法

肢体不自由教育部門高等部では、障害特性やその程度に関係なく、集団の中で自ら人とかわらうとする力を身につけることが、将来の豊かな生活につながると考え、「人とのかかわり」に焦点を当てた主体的な姿の育成をめざして研究に取り組んだ。

学部研究仮説には、「見通し」「判断力」「コミュニケーション力」の3つのキーワードを盛り込み、各グループの生徒の実態や研究のねらいに応じて選択できるようにした。これにより、一人一人の生徒に寄り添い、「自立」の視点を踏まえた主体的な姿やその姿を引き出す授業とはどのようなものかを模索することができると考えた。



【学部研究仮説】

「見通しをもつ」「判断力が向上する」「コミュニケーション力が向上する」これらをめざした授業づくりをすることで、生徒の意欲が向上し、主体的に活動する場面が増える

2 研究の実際 (タイプVグループ)

(1) 対象生徒の実態等 と グループの研究仮説

【実態】

- ・特定の人顔や声が分かり、言葉かけに応じて声を出す
- ・目の前にある物を注視・追視できる
- ・声や動作で不快さを表出する
- ・要求や選択の問いかけに、声や動作で意思を表出する

【主体的な姿】

- ・見通しをもちコミュニケーション力向上
- ・感情や要求をたくさん表出する
- ・色々な事に興味を示し、生活を楽しむ

【手だて】

- ・生活に結びつく活動を単元でくり返し、展開をパターン化
- ・実物を用意したり、変化や動きのあるもので五感を刺激
- ・発信を受けてフィードバックやアクションをする
- ・表出を教師間で共有

【研究仮説】

人、物、事が「わかる」授業を展開し、教師が生徒の表出を正しく受け取ることで意思表示がより積極的になる。

【検証方法】

- ・重度・重複障害児のアセスメントチェックリストによって、コミュニケーション関連項目を分析
- ・実態把握表に基づいて個々の実態や支援を整理し、指導案の作成と研究授業を実施
- ・ビデオ撮影を行い、生徒の主体的な姿の把握とその要因を分析



(2) 実践経過

【研究授業】 H26 日常生活の指導 H27・H28 自立活動（季節、調理、お話、コミュ）

【有効な手立て】

①活動内容・授業展開	②教材教具・環境設定	③関わり方・指導方法
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活に結びつく活動 ・活動の開始と終了を、音や掛け声で明示 ・意思を伝えたり選択する場面を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・水や新聞紙など変化や動きのあるもので五感を刺激 ・視線や可動域に配慮し、生徒同士が見やすい座席配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた提示方法や問いかけ方 ・発信に照応した、フィードバックやリアクション ・生徒の表出を教師間で共有

【主体的な姿】

授業名	実態	主体的な姿
お話「雨を感じよう」  <p>冷たいね〜!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を提示すると、じっと見て声を出したり手足を動かす等の様子が見られる ・視線や笑顔、声や挙手で選択をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や傘が近くにくると手を伸ばして触ろうとする ・シャワーの水が傘にあたる時に冷たさを感じたり、水滴を見て驚き、笑う
コミュ「暑さをふきとばせ！」  <p>ぎゅ〜っ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな音に敏感に反応したり、触覚過敏により自分から物を触りたがらない ・楽しい活動では声を出したり手足を動かしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙をちぎって丸める音や、つぶす動きに笑顔を見せる ・ゲーム中に自分の順番をアピールし、できた時は喜ぶ

(3) 結果と考察・課題

【結果と考察】

- ・個々の表出方法を具体的に示して共有
⇒正しく受け取り、授業評価もしやすい
- ・感覚刺激に生活や季節行事をからめる
⇒学習内容が分かりやすい
日頃の生活での楽しみが増える

【課題】

- ・自立活動の各分野を横断的に関連させたテーマを設定し、精選した共通のことばを使うことでより分かりやすい授業を目指す
- ・表出方法や関わり方のカードを実態把握表からつくり、実習先や進路先につなげる

3 研究の成果と課題

【成果】 ○生徒の変容(主体的に活動する姿の増加)。

要因①意図的な学習場面設定 ②スキル習得のための具体的な方法提示
③教師の視点、アプローチ方法の広がり ④有効な手立ての共有化

【課題】 ○卒業後にめざす姿を的確に捉える視点づくり。

○研究の成果を卒業後の生活につなげるための取り組み。